

# クリーニング事故事例約350件から類似例を検索

日本テキスタイルケア協会データベースサイト

クリーニング需要が衰退する状況にあって、クリーニング事故の発生は、消費者の信頼を失う決定的なものになりかねない。

一般社団法人日本テキスタイルケア協会の統計資料によるとメーカー及びクリーニング以外の要因による事故は、約80%となっている。しかし、接客現場においては消費者の被害者意識から、多くの事故原因をクリーニング業者側が引き受けざるを得ないことになっているのが実態だ。

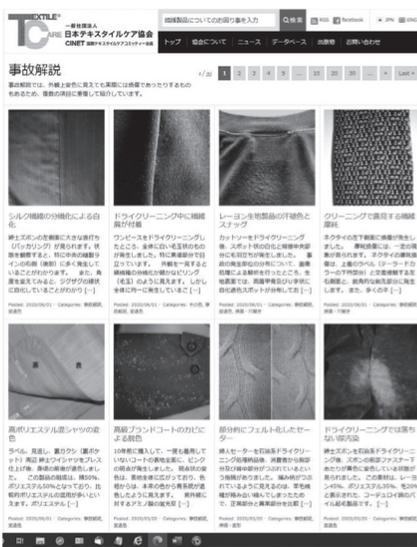
同協会の運営するデータベースでは、クリーニング事故事例原因解析が約350件収録されており、月額800円(税別)の使用料によってそのすべてを利用できるようになっている。

例えば、有名ブランドの婦人スーツを仕上げて納品したところ、半年後、消費者から「着ようと思ってクローゼットから出したら、全体にポツポツと変色している」という申し出があったとする。よく見ると、確かに生成り風の綿生地が大小の斑点状にピンクっぽく変色している。

そこで、申し出た消費者と一緒にタブレット(パソコン、スマホも可)を使って協会データベースの「事故解説」というタブを開き、上の「検索」という欄に「変色」というキーワードを入れ検索する。

すると、「検索結果: “変色” - 157件」として、「高ポリエステル混シャツの変色」「蛍光染料脱落による変色」などの事例が表示され、「カビによる綿製品の保管中の変色」の項目を見ると、「綿100%の婦人スーツを、昨年10月頃石油系溶剤ドライクリーニングを行い、6月に保管から出したところ、斑点状にピンクの変色が発生していました。」とある。

この「カビによる綿製品の保管中の変色」という見出しをクリックすると、大きなカラー写真のある解説ページになる。カラー写真は、同じ事故部分を自然光と紫外線照射試験を対比させるように紹介されている。解説には「綿100%の婦人スーツを、昨年10月頃石油系溶剤ドライクリーニングを行い、6月に保管から出したところ、斑点状にピンクの変色が発生していました。ブラックライト照射によって、蛍光発色が退色した斑点部分に一致して現れました。この蛍光色はカビ菌に含まれるアミノ酸によるものであるといえます。また、飛散した粉末状に発生するのは、カビの特徴で、浸透する液体の影響によるものとは明らかに異なるものです。カビは、一定の湿度と温度などの環境によって特に植物系繊維に発生しやすく、菌糸の成長と共に染料を分解したり、自身の色素を定着させたりします。この斑点状の変色は、カビ菌による染料の酸化分解作用によるものであり、保管状況においての温度と湿度が高かったといえます。鮮明にカビの反応があることから、ガス退色、染色状態など他の要因は考えられません。カビの蛍光反応で特徴的なのは、点状の蛍光が、どんなに密集していてもパウダー状に、独立しており、



変色

検索

検索結果: “変色” - 157件



面を形成しないことです。これは、個々の菌が独立して集団化しているためです。特に、ポリプロピレンのカバーを掛けたままで保管すると、吸湿性の高い綿製品は、湿気た状態が継続するためカビ発生の可能性が高くなります。消費者は、必ずポリカバーを除去して、除湿剤を使うとか、保管中の乾燥した日には、クローゼットから取り出して風乾するなどのお手入れが効果的です。」とある。これを類似事例として、消費者に共感をもらえるように説明する。

クリーニング事業者側の自己主張ではなく、インターネット上の一般社団法人日本テキスタイルケア協会という公式のサイトなので、消費者の理解を得やすいように考えられる。また、このサイトは、全国の40の消費者センターも利用している。

また、この事故事例に関連した消費者向けのアドバイスとして、「暖房ガスによる変色やカビを防ぐ寒干しをしよう」という項目もあり、これを消費者に紹介する。

ここでは、「寒い冬の間は、エアコンだけではなくガスや石油ストーブによる暖房で、部屋を暖めますが、燃焼ガスはクローゼットの衣類の変色やカビの原因になることがあります。石油ストーブなど燃焼する暖房器具からは、たとえ完全燃焼であっても必ず大気汚染ガスである酸化窒素ガス(NOx)や水蒸気が発生します。これらのガスや水蒸気が、クローゼットの中に侵入すると、その中に滞留して衣類の染料を分解することがあります。水蒸気は温度の低いクローゼットの中で結露し、変色やカビの繁殖を促します。晴天の続く日の午前10時から午後3時までの間に、部屋の窓を開け放って陰干しをすると湿気が放散し、ガスによる変色やカビの発生を防ぐことができます。ポリ袋に入れたままの保管は絶対に止めてください。」と書かれている。

事故解説とは別に、「消費者アドバイス」としてわかりやすいイラストによる250件ものアドバイスが掲載されている。

このサイトは、googleなどで「日本テキスタイルケア協会」とキーワード検索すればすぐにアクセスすることができる。なお、今号6面に掲載している「難洗衣料解体新書」は、このデータベースの内容を紹介するものである。



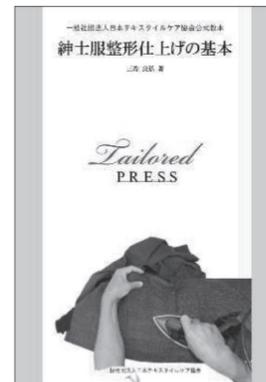
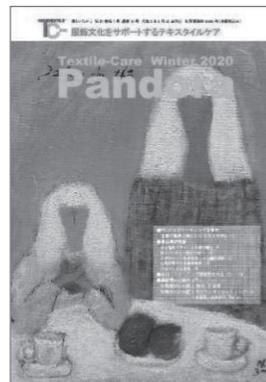
暖房ガスによる変色やカビを防ぐ寒干しをしよう



寒い冬の間は、エアコンだけではなくガスや石油ストーブによる暖房で、部屋を暖めますが、燃焼ガスはクローゼットの衣類の変色やカビの原因になることがあります。石油ストーブなど燃焼する暖房器具からは、たとえ完全燃焼であっても必ず大気汚染ガスである酸化窒素ガス(NOx)や水蒸気が発生します。これらのガスや水蒸気が、クローゼットの中に侵入すると、その中に滞留して衣類の染料を分解することがあります。水蒸気は温度の低いクローゼットの中で結露し、変色やカビの繁殖を促します。晴天の続く日の午前10時から午後3時までの間に、部屋の窓を開け放って陰干しをすると湿気が放散し、ガスによる変色やカビの発生を防ぐことができます。ポリ袋に入れたままの保管は絶対に止めてください。」

## アマゾン (AMAZON) で買える

## Kindle (キンドル) で読める



電子書籍Kindle(キンドル)で「かなり賢いファッション・ケア」「繊維製品ダメージチェック」がダウンロードして読めるようになりました。タブレットやスマートフォンでも持ち運べます。\*書名か著者名「住連木」で検索できます

世界最大のインターネットショッピングサイト“AMAZON(アマゾン)”で品質情報研究所の本が手軽に買えるようになりました。「かなり賢いファッション・ケア」「繊維製品ダメージチェック」などのキーワード検索で…。「品質情報研究所」のキーワードでアップされているすべての本が閲覧できます。

